

第50回東京厚岸会 その歴史と未来



2月16日、関東地方在住の厚岸町出身者とゆかりの方が集まり『第50回東京厚岸会』が東京都内で開催され、総勢85人の参加がありました。

これまで50回の開催を支えていただいた厚岸町の皆様のご支援、ご協力に心から感謝をし、厚く御礼申し上げます。また、厚岸町町制施行120周年の記念すべき節目の年に祝意を共有できますことに会員一同、大変うれしく、胸を熱くするものがあります。

当日は若狭靖厚岸町長はじめ、堀守厚岸町議会議長、中村一明厚岸町商工会長、北村誠厚岸観光協会長、倉館建一厚岸漁業協同組合副組合長、福井好三釧路太田農業協同組合副組合長、中嶋均カキキン(有)代表取締役、その他に友情参加者など、厚岸町から多数の参加がありました。

中村武史会長の開会挨拶後、ゴジラの映画テーマ音楽(伊福部昭作曲)が会場に流れる中、若狭靖町長が登壇し『トークイベント・その歴史と未来』が始まりました。(作曲家の伊福部昭さんは1935年から1940年までの間、厚岸森林事務所に林務官として勤務していました)

若狭町長には『みんなのあっけし 新時代の創造に向かって』、『大活躍の若きアスリート(佐藤綾乃さん、佐藤龍世さん)』、『町制施行120周年の記念式典』など町の近況や様子を中嶋均氏も登壇し『厚岸のカキ』に関するお話しいただきました。

また、中村武史会長と宗石亨前会長が登壇し、『東京厚岸会のこれまでの歩み』最初に東京都文京区にある『都立小石川後楽園(徳川光圀ゆかりの公園)』に集まった当時のこと、『後世に残すエゾヤマザクラの植樹』などを語りました。

続いて堀守町議会議長の音頭で乾杯、唱歌『ふるさと』を参加者全員で歌い、懇親会がスタートしました。会場は、ふるさとを懐かしく語り合い、人の輪が幾つもできていました。

ふるさとゆかりの向谷実さんのトーク、ふるさと連合会長である新家鶴男さんのかくし芸、厚岸町出身の歌手・宇佐美由美子さんの歌唱、そして、東京厚岸会初参加の『うみえもん』の登場で会場は大いに盛り上がりました。



特別提供の厚岸ウイスキーの試飲、厚岸クイズや抽選などでカキなどの特産品を手にして、どの顔にも笑みがあふれ、話が尽きない中、中村一明商工会長の中締めで盛会の内にお開きとなりました。

今回、東京厚岸会会員へ『50回への思いを一言』を募りました。その中で『厚岸町の皆さんへの感謝』が多く寄せられ、その他には『厚岸は私にとって先祖からの土地なのです(95歳)』、『大学生の時に御祖母(おばさま)と一緒に初回から出席。当時の状況が数年前のごとく懐かしく思い出され、次第に目が曇る。感無量の一時を得られました(72歳)』などの記載もありました。

はじめて『小石川後楽園』に集合された方の『ふるさとを思う心』をこれからも受け継ぎ、親睦の輪を広めて行くように努めて参ります。

(東京厚岸会事務局長 石井龍兒)

